

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 6 部門第 3 区分

【発行日】平成22年8月12日 (2010.8.12)

【公表番号】特表2006-524873(P2006-524873A)

【公表日】平成18年11月2日 (2006.11.2)

【年通号数】公開・登録公報2006-043

【出願番号】特願2006-513342(P2006-513342)

【国際特許分類】

G 0 6 F 12/00 (2006.01)

G 0 6 F 13/10 (2006.01)

G 0 6 F 3/06 (2006.01)

【F I】

G 0 6 F 12/00 5 4 5 A

G 0 6 F 12/00 5 4 5 M

G 0 6 F 13/10 3 4 0 A

G 0 6 F 3/06 3 0 4 F

【誤訳訂正書】

【提出日】平成22年6月17日 (2010.6.17)

【誤訳訂正 1】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0 0 4 1

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0 0 4 1】

移動中は、N A S スイッチ 1 1 0 内の移動モジュール 2 2 0 が、名前空間複製を用いて、ソースファイルサーバ 1 2 0 から宛先ファイルサーバ 1 3 0 への移動を調整する。名前空間複製は、ソースファイルサーバ 1 2 0 のディレクトリメタデータをデータ自体から切り離してコピーする。移動モジュール 2 2 0 がディレクトリを全体にわたってチェックしてデータをコピーする時、移動モジュールは、オブジェクトが移動したかどうか、もしそうならオブジェクトがどこに移動したかを示すファイルハンドル移動テーブルを更新する。名前空間複製は、データ移動よりも何倍も高速なので、データ移動が発生している間もディレクトリサービスは利用可能のままである。ファイルハンドル移動テーブルは、どのオブジェクトが移動したかの現在のリストを提供するので、N A S スイッチ 1 1 0 は、ほとんど連続したデータ利用可能性を提供できる。一実施の形態では、N A S スイッチは、例えば、装置クラッシュまたはデータ破壊に対してファイルハンドル移動テーブルを再構成できる。

【誤訳訂正 2】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0 0 5 8

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0 0 5 8】

一実施の形態では、移動モジュール 2 2 0 は、例えば、装置クラッシュまたはデータ破壊により、移動モジュール 2 2 0 を再構成する。そのために、移動モジュール 2 2 0 は、ソースファイルサーバ 1 2 0 の名前空間を全体にわたってチェックする。格納したファイルハンドルは一貫したサイズを有するので、移動モジュール 2 2 0 は、格納したファイルハンドルを直ちに認識し、ポインタ情報を検索できる。この関連性を再構成したファイルハンドル移動テーブルのエントリに追加する。

【誤訳訂正 3】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0060

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0060】

図10は、本発明の一実施の形態により、移動したオブジェクトに関するNASリクエストをリダイレクトする方法(330)を示すフロー図である。NASスイッチ110は、スイッチファイルハンドルから、ファイルシステムテーブルにおいてファイルシステムIDを見つける(1010)。NASスイッチ110は、次に、ファイルシステムIDから、ファイルハンドル移動テーブルを見つける(1020)。ファイルが移動されていない場合(1030)、NASスイッチ110は、ソース、つまり元のNASファイルハンドルを用いてクライアントリクエストを送る。ファイルが移動された場合(1030)、NASスイッチ110は、ソースファイルサーバ120内のファイルハンドル移動テーブルから宛先NASファイルハンドルを検索する。

【誤訳訂正 4】

【訂正対象書類名】図面

【訂正対象項目名】図10

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【図 10】

